

第1章

平成23年度 いんざい環境ニュース

平成23年度に印西市で開催された環境関連イベントや環境保全に関する新しい取組み、出来事などを紹介します。

本文中、 印の付いている用語の解説は、資料編 P.70 用語解説をご覧ください。

1 放射線量低減化対策

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災は、建物の一部損壊や道路の陥没、電気や水道といったライフラインの被害等、印西市内においても大きな影響をもたらしました。

また、東京電力福島第一原子力発電所の事故のため、放射性物質が環境中に放出され、健康への不安の高まりから、市では市内 48 箇所で継続的な空間放射線量測定を実施するなどの対策を行いました。

千葉県では大気中の放射線量の測定を拡充するため、県内 6 カ所に新たにモニタリングポストを設置し、既設 2 カ所と合わせ、合計 8 カ所で空間放射線量の常時監視を行っています。このうち、市内では高花の印西市立船穂中学校にモニタリングポストが新設されました。



千葉県のモニタリングポスト

空間放射線量等の測定

市では、5月下旬から幼稚園、保育園、小中学校、公園等の空間放射線量を測定し、広報やホームページで公表しました。

なお、身近な生活空間の空間放射線量を把握できるよう、放射線量測定器の貸出しや測定員の派遣を実施し、平成 23 年度の実績は、貸出しが 632 件、派遣が 126 件となりました。

また、幼稚園、保育園、小中学校、学童クラブ等の職員や指導員の協力をいただき、子どもの生活実態に即した累積放射線量を推計し、広報やホームページで公表しました。



空間放射線量測定の様子



測定機器

農産物の測定

市では、平成23年12月より出荷前の印西市産農産物の全品目を対象に放射性物質検査を実施しており、平成24年3月末までに検査を実施した39品目178検体のすべてで国が定める基準以下の結果となりました。

ただし、千葉県が行った検査で“印西市産しいたけ(原木・露地栽培)”及び“印西市産たけのこ”から国が定める基準を超える放射性物質が検出されたことを受け、生産者及び関係事業者等に安全性が確認されるまで出荷を差し控えるよう要請しています。(平成24年11月現在)

印西市及び千葉県では、今後も農産物等の放射性物質検査を継続して行い、安全性の確認に努めてまいります。

除染の実施

印西市は、平成24年1月1日に全面施行された「平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震に伴う原子力発電所の事故により放出された放射性物質による環境の汚染への対処に関する特別措置法(平成23年法律第110号)」に基づく「汚染状況重点調査地域」に指定されました。

これを受け、市では国と協議し、法定計画である「印西市除染実施計画」を策定し、財政的及び技術的支援を受けながら、市域全体の除染を進めています。

市では、子どもへの影響に配慮し、子どもの生活空間となる施設から優先的に除染の実施を進めています。



除染工事の様子

放射線に関する最新の情報、市の取組みが知りたい時は

市では、平成24年5月1日号広報より、毎月1日の広報に「印西市放射線対策情報」を掲載しています。放射線量の測定結果や、農産物の検査結果、除染の実施状況等を詳しく掲載しています。

また、ホームページの情報も随時更新していますので、ご覧ください。

印西市ホームページ(<http://www.city.inzai.chiba.jp/>)
トップページより、「いざというとき」「放射線に関する情報」を選択



2 節電の取組み

東日本大震災とそれに伴う東京電力福島第一原子力発電所事故の影響で、平成 23 年度の夏季は深刻な電力供給力不足が発生しました。これを受け、市では、各公共施設内の事務室内やトイレの照明の一部消灯や、空調機器の室内設定温度や稼動時間に制限をかけるなど、率先してさまざまな節電対策に取り組み、市役所庁舎においては年間電力消費量を前年度より 28%削減することができました。

また市民・事業者のみなさんにも呼びかけを行い、一層の節電にご協力いただきました。

家庭及び事業所での節電

市では、家庭における節電の取組みを推進するため、市民の皆様の節電対策の参考となるよう、「家庭でできる節電十カ条」をまとめ、広報に掲載しました。

また、市内の事業者の皆様にも、事業に支障をきたさない範囲で、次のような節電の取組みをお願いしました。

店舗・商店街のネオンサインや看板の消灯、営業時間の短縮など。

オフィス照明の抑制、OA 機器のこまめな電源オフ、空調温度の設定。

夜間の会議を日中に行うなど、なるべく時間外業務を少なくする。

家庭節電十カ条

- 一．エアコンは、我慢ガマン扇風機
- 二．陽差しはけ、よしず、すだれにブラインド
- 三．洗濯は全部まとめて晴れた日に
- 四．沸かしたお湯は魔法瓶に移し替え
- 五．残ったご飯、保温しないで冷凍庫
- 六．冷蔵庫いつもすっきり詰め込まない
- 七．掃除機をたまにホーキに持ち替えて
- 八．江戸の知恵みんなで「打ち水」大作戦
- 九．長～く愛して。僕も買ったよLED
- 十．一つの部屋で一家だんらん楽しいな

太陽光発電システム等補助制度

東日本大震災以降、再生可能エネルギーの導入が一層推進されています。市では、環境負荷低減および地球温暖化防止に資することを目的とし、太陽光発電システムや太陽熱利用温水器の設置費用の一部を補助してきました。

平成 23 年度の太陽光発電システムの設置補助基数は 181 基でした。平成 17 年度からの 7 年間で累計 529 基の補助を行っています。

グリーンカーテンの普及促進

夏の節電対策の一つとして、市ではグリーンカーテンの設置を推進しています。グリーンカーテンとはアサガオやヘチマ、ゴーヤなどのつる性植物をネットにからませ、窓や建物の壁面を覆うもので、夏の強い日差しを遮ります。また、暑い夏の日打ち水をすると涼しくなるように、グリーンカーテンは植物の葉っぱから水分が蒸発する際に周囲の熱を奪う「蒸散作用」で温度を下げる効果や、壁や地面への日射を遮ることで、放射熱の発生を防ぐ効果もあります。

グリーンカーテンの涼しさのヒミツ

1. 日射を遮る ~ 窓からの日射の侵入を防ぐ ~
2. 蒸散作用 ~ 葉の体温調整で放射熱を抑える ~
3. 放射熱を防ぐ ~ 家のまわりの表面温度を抑える ~

出典：環境省 チャレンジ 25

平成23年5月23日には、市役所と各支所でゴーヤの苗の無料配布を行いました。市民の皆様の節電への意識は高く、当日は長蛇の列ができました。

市の公共施設では、合計約86施設で合計1,000メートルのグリーンカーテンが設置され、カーテンの外側と内側では、平均で約2℃、最大で7℃の温度差がありました。



実ったゴーヤを食べることも楽しみの一つ

また、市が主催した「グリーンカーテンコンテスト」では、市民の皆様から様々な工夫を凝らしたグリーンカーテンの取り組みをご報告いただきました。



永治学童クラブ、子ども達も涼しげな様子



見事なグリーンカーテン

3 小倉台小学校のビオトープ

小倉台小学校におけるビオトープづくりの取組みが評価され、「全国学校・園庭ビオトープコンクール 2011」で日本生態系協会賞を受賞しました。

このコンクールは、学校・園庭ビオトープの優れた実践例を広く全国から収集・紹介することで、環境教育の推進や自然と共存する地域づくりに貢献することを目的に、財団法人日本生態系協会が1999年から隔年で開催しています。

小倉台小学校のビオトープは、「ふれあいの里」と呼ばれ、自然豊かな印西市の「里山」をモチーフにしています。二つの池と、水田、小川から構成されており、水辺にたくさんの生き物が集まってきました。

このビオトープで見られる動物は、ザリガニ・メダカ・フナ・オタマジャクシ・カエルなどで、ウグイス・シジュウカラ・ハトなどの野鳥もやってきます。

ビオトープは、自然の中で多くの生きものと直接ふれあうことによって豊かな感性を育み、命の大切さを知ることのできる環境教育の教材でもあります。小倉台小学校のビオトープも、児童達の自然観察に最適な場所として、環境教育の充実に役立っています。



水の流れが再現されています



水田の様子



1年生がザリガニとりに挑戦中

4 中根の里山クリーン作戦

中根の里山は、印西市を代表する里山の一つですが、斜面林に点在する不法投棄現場が長年の懸案となっていました。

そこで、平成24年2月26日、「中根の里山クリーン作戦」と題して大規模な清掃活動を実施しました。その結果、24団体約260人の皆様にご協力をいただき、26トンもの不法投棄物を撤去することができました。



大規模な不法投棄現場

平成22年度には「不法投棄撤去事業」として25箇所の現場から合計111トンの不法投棄物を協働撤去しており、これと合わせて市内の民有地における大規模な不法投棄現場はほぼ一掃することができました。

不法投棄物を放置すると、そこに新たな不法投棄を呼び込む悪循環が生じ、状況によっては有害物質が漏出するなど、深刻な環境汚染に発展するケースもあります。

市では、監視カメラの増設や市職員及び不法投棄監視員、委託警備会社によるパトロールなどにより監視体制を強化していますが、市民のみなさんが「不法投棄は絶対にさせない、許さない」という強い気持ちで監視の目を光らせることが、何よりも効果的です。今後も市民のみなさんと連携し、不法投棄の撲滅を目指していきます。



約260人が参加した大規模なクリーン作戦



不法投棄撤去後 きれいな里山に

5 地産地消シンポジウム

印西市は、千葉ニュータウンを中心に都市化・人口増加が進む一方で、緩やかな丘陵には広大な水田地帯が広がる農住調和の未来型都市です。

温暖な気候と豊かな農地を背景に、野菜や果実など多様な農産物が一年を通して生産され、特に米は、印旛村・本埜村との合併により県内でも有数の産地になりました。現在、市では地域の農業振興と、市民メリットの向上に向けて、地域の農産物を地域でもっと消費してもらおうという「地産地消」の仕組みづくりを進めています。

地産地消シンポジウムは、「地域の豊かな食材をみんなの楽しい食卓へ」をテーマに、旬の新鮮な地場農産物を使った料理の楽しさを知っていただき、地産地消について市民の理解を深めていただくことを目的として、平成24年1月28日に文化ホールにて開催しました。

当日は、一般市民をはじめ各農業団体、千葉県及び周辺市町村関係者等、約250名の方々に参加いただき、地域農家や学校給食における取組みの発表のほか、シニア野菜ソムリエの高原和江先生による「地域食材の魅力をいかして、楽しい食卓づくり」と題した基調講演や、「印西市地産地消推進計画の報告」、「チーバくんといっしょに地産地消 ×クイズ」等が行われました。



文化ホールで開催しました



高原和江先生の基調講演



チーバくんも参加した ×クイズ
上位入賞者にはプレゼントも